

2023 年 度 環 境 経 営 レ ポ ー ト

(運用期間:2023 年 4 月～2024 年 3 月)

未来へつなぐ
蛍光管・乾電池リサイクルへの挑戦



2024 年 6 月 20 日 作成

(24/9/20 P2 修正)

株式会社 ジェイ・リライツ

目 次

No.	項 目	ページ
1.	環境経営方針	1
2.	事 業 概 要	2
3.	環境経営目標	5
4.	環境経営計画	6
5.	2023 年度 環境経営目標及び実績	8
6.	環境活動の取組結果の評価、次年度の取組み内容	9
7.	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟の有無	13
8.	代表者による全体評価と見直しの結果・指示	13
9.	環境コミュニケーション	13

1. 環境経営方針

【基本理念】

株式会社ジェイ・リライツは使用済み蛍光灯・乾電池の水銀含有廃棄物の再資源化に永年取り組んでおります。これらの事業を通じ循環型社会の形成・発展と地球にやさしい企業を目指し絶え間ない努力を致します。

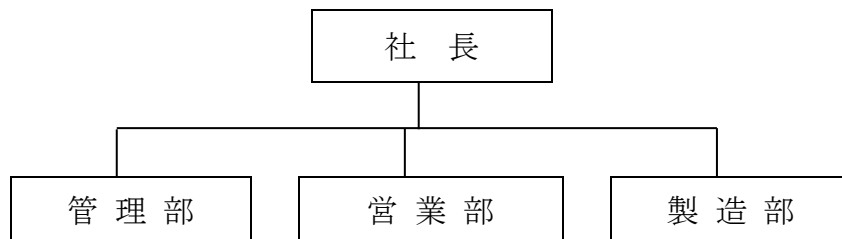
【行動指針】

1. 国及び地方公共団体の環境規制並びに、その他の要求事項を遵守し、組織的な環境管理活動に取り組みます。
2. 全域に散在する水銀廃棄物の回収、協力会社等による収集運搬システムの効率化に取り組みます。
3. 蛍光管リサイクルでは、より一層の再資源化を目指します。
4. 乾電池リサイクルでは、ゼロ・エミッションを目指します。
5. 環境目標を設定し、全従業員に周知し環境への意識向上に努め、継続的改善に努めます。
6. 省エネルギー活動の推進に努めます。

改定 2020 年 1 月 6 日
株式会社ジェイ・リライツ
代表取締役 中西 智彦

2. 事業概要

- ◇ 住 所 〒808-0021 北九州市若松区響町一丁目 62 番地の 17
- ◇ 会 社 名 株式会社ジェイ・リライツ
- ◇ 設立年月日 平成 12 年 5 月 1 日 (平成 13 年 10 月操業開始)
- ◇ 資 本 金 100 百万円
- ◇ 代 表 者 代表取締役 中西 智彦
- ◇ 環境管理責任者 製造部 林 正人
- ◇ 担当連絡先 TEL 093-752-2386 FAX 093-752-2387
- ◇ 事業内容
- ・使用済蛍光管リサイクル事業
 - ・使用済乾電池リサイクル事業
- ◇ 売 上 高 323 百万円 (2023 年度)
- ◇ 認証・登録範囲
- 全組織・全活動・全従業員
- ◇ 認証・登録の対象活動範囲
- 一般廃棄物・産業廃棄物の中間処理
- ◇ 組織体制



従業員数 26 名 (派遣社員含む)

- ◇ 優良産廃処理業者認定制度 情報公表項目

【環境保全技術に関する資格取得状況】

中間処理施設技術管理士	1 名
破砕・リサイクル処理施設技術管理士	1 名
毒物劇物取扱者	1 名
乾燥設備作業主任者	2 名

【登録・許可関係】

登録・許可の名称	許可番号	許可項目	発行者	許可の年月日
				(許可の有効年月日)
産業廃棄物処分業	第 07620080147	廃プラスチック類、 金属くず、 ガラスくず、 汚 泥	北九州市	令和 5 年 10 月 3 日
				(令和 12 年 10 月 2 日)
一般廃棄物処分業	北九一廃 第 201 号	B 類 (蛍光灯、水 銀血圧計、水銀体 温計、一次電池)	北九州市	令和 6 年 4 月 1 日
				(令和 8 年 3 月 31 日)
毒物劇物製造業登録	九州第 10005 号	水銀	九州厚生局	令和 4 年 2 月 18 日
				(令和 9 年 2 月 17 日)

【施 設 の 概 要】

施設の種類	破碎施設 (蛍光灯)	破碎施設 (乾電池)	水銀を含む汚泥の ばい焼施設
処理能力	18.3 t / 12h	5.6 t / 8h (破碎) 3.2m ³ / 8h (選別)	0.1 m ³ / 16h
処理方法	破碎	破碎・選別	——
主な構造・設備	破碎機、洗浄機、 乾燥機	破碎機、選別機	電気加熱凝縮式
環境保全対策	■排ガス処理設備 (バグフィルター及びMRG塔) ■循環型洗浄水処理装置 (クローズド)		

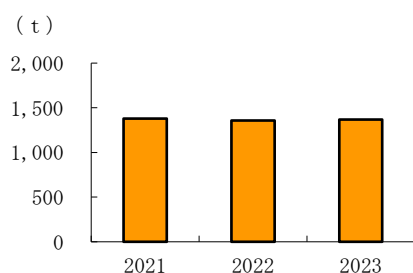
【処 理 料 金 (産廃)】

処理品目の種類、数量、搬入方法等により処理料金が異なります。
詳細については『営業部』へご確認ください。

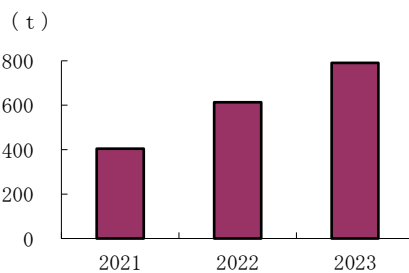
《連絡先》 TEL 093-752-2386 FAX 093-752-2387

【 受 入 実 績 】

	単位	2021 年度	2022 年度	2023 年度
蛍光灯受入量	t	1,380	1,358	1,369
乾電池受入量	t	405	613	791



蛍光灯受入量



乾電池受入量

処理設備フロー



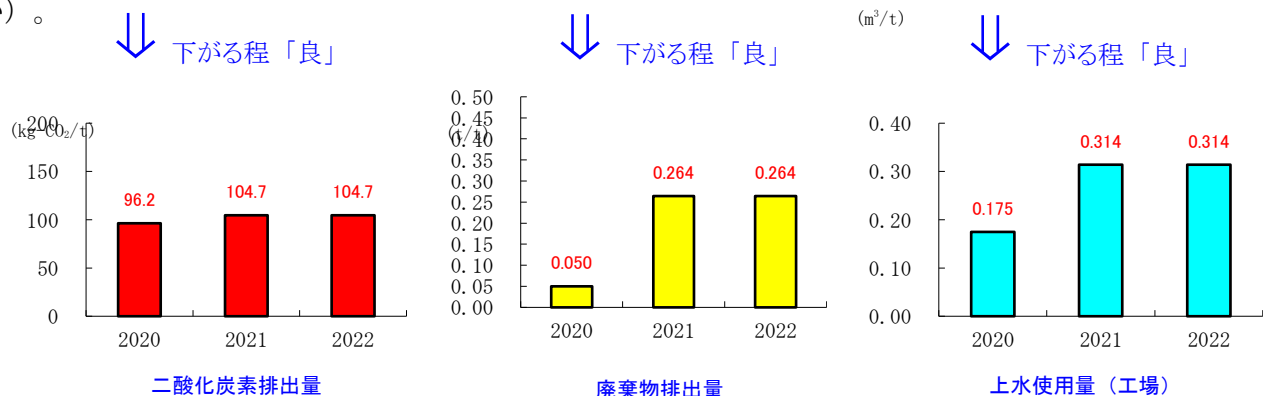
3. 環境経営目標

1. 当年度及び中期目標

項 目	総 量	2022 年度 (基準値)	2023 年度	2024 年度	2025 年度
	単位 量				
①二酸化炭素排出 量(受入量当り)※ 1※2	kg-CO ₂	262,136	259,541	217,815	217,815
	kg-CO ₂ /t	123.4	122.2	104.7	104.7
②廃棄物排出量 (受入量当り)※2	t	606	600	550	550
	t / t	0.284	0.282	0.264	0.264
③上水使用量(事務 所) (人数当り)	m ³	327	324	300	300
	m ³ /人	12.1	12.0	11.5	11.5
④上水使用量(工 場) (受入量当り)※2	m ³	582	577	400	400
	m ³ /t	0.399	0.396	0.314	0.314
⑤化学物質使用における適 正な 維持・管理	[化学物質の適正管理] ・使用済蛍光管の処理工程にて使用する薬品購入量の把握、生成品の性状等に応じた使用量の適正管理を行う。				
⑥グリーン購入法適合商品の 購入	[事務用品のグリーン購入法適合商品及びエコ商品の購入促進] ・必要に応じて購入する事務用品等はグリーン対象商品とする。				
⑦受託した産業廃棄物の再 資源化取組みの推進	[受託した産業廃棄物の再資源化取組みの推進] ・再資源化の取組及びそれらの新規販売先開拓等拡販の推進。				

※1 電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力㈱の 0.385kg-CO₂/kWh を使用。

上表中記載の目標値についてグラフ化した。数値が下がるほど環境に与える負荷は少ない（良い）。



4. 環境経営計画

1. 二酸化炭素排出量の削減

1) 電気使用量の削減

- ① ホッパー内物量に応じたバッチ運転の実施，定期点検・保守等による設備の故障停止の防止等、洗浄・乾燥工程機器の運転効率の向上
- ② 休憩中における工場内照明の消灯，作業に応じたスポット照明の導入
- ③ 事務所のエアコン，照明スイッチの天候等に応じた適切な管理
- ④ 冷却水冷却ファンの夏季のみの運転
- ⑤ 空調温度は可能な限り冷房 28℃、暖房 20℃の維持

2) 化石燃料の削減

- ① 季節に応じた各乾燥機の設定温度の見直しによる運転温度の適正管理
- ② 電動フォークリフトの導入
- ③ 社有車の“アイドリングストップ”の推進
- ④ 低燃費かつ低排出ガス車（ハイブリッド車）を導入

2. 廃棄物排出量の削減

1) 最終処分残渣量の削減

- ① 自治体等への協力要請により原型管での導入の促進
- ② ガラスカレットスペックの向上により再資源化への促進
- ③ 蛍光粉、スラッジ等の再資源化への促進
- ④ 残渣の路盤材活用への推進

2) 事業活動を通じた環境活動の推進

- ① 排出事業者へ蛍光管収納専用ラック・コンテナ（リターナブル方式）活用の働きかけ



- ② 蛍光管搬送・包装用紙類のリサイクルを促進

3) 紙使用量の削減

- ① ミス用紙の裏紙コピー，メモ用紙としての活用及び両面コピーの促進
- ② 機密文書のリサイクル化



3. 上水使用量の削減

- ① 手洗い，食器洗い，洗濯等節水を励行
- ② 蛇口の閉め忘れ防止等細やかな節水対応
- ③ 不溶出化方法の変更による水使用量の削減

4. 化学物質使用における適正な維持・管理

- ① 薬品購入量の把握，生成品の性状等に応じた適正管理
- ② 供給タンク，配管の定期的な点検による保守管理

5. グリーン購入法適合商品の購入

- ① コピー用紙，封筒，名刺，パンフレット等の再生紙の利用
- ② 事務用品等のグリーン購入法適合商品の選定

6. 受託した産業廃棄物の再資源化取組みの推進

- ① 受託した産業廃棄物の計測，搬入出管理
- ② 再資源化取組みの推進
- ③ ガラスカレット等の新規販売先の開拓

5. 2023 年度 環境経営目標及び実績

項 目	単 位	2022 年度 基準値	2023 年度 目標	2023 年度 実績	
			[受入量 2,124 t]	[受入量 2,161 t]	対目標比 (%)
①二酸化炭素排出量※ ¹	kg-CO ₂	262,136	259,541	207,771	80.1
(受入量当り)	kg-CO ₂ /t	123.4	122.2	96.2	78.7
(1)電気使用量	MWh	606	600	381.5	63.6
(2)LPG 使用量	kg	25,250	25,000	20,410	81.6
(3)ガソリン使用量	L	303	300	184.8	61.6
②廃棄物排出量	t	606	600	107	17.8
(受入量当り)	t/t	0.284	0.282	0.050	17.7
③上水使用量(事務所)	m ³	327	324	268	82.7
(人数当り)	m ³ /人	12.1	12.0	10.3	85.8
④上水使用量(工場)	m ³	582	577	240	41.6
(受入量当り)	m ³ /t	0.399	0.396	0.175	44.2
⑤化学物質使用における適正な 維持・管理		使用済蛍光管の処理工程にて 使用する薬品購入量の把握、生 成品の性状等に応じた使用量 の適正管理を行う		・薬品購入量の把握 ・ガラスカレット等生成 品の性状の確認 ・設備の薬品投入量設定 値での運転継続 ・薬品注入設備等の日常 点検実施 ・水濁法特定施設の定期 点検	
⑥グリーン購入法適合商品の購入		必要に応じて購入する事務用 品等はグリーン対象商品とす る		・コピー用紙、トイレッ トペーパー、事務用品 は可能な限りグリーン 対象商品を選定	
⑦受託した産業廃棄物の再資源化 取組みの推進		再資源化の取組及びそれらの 新規販売先の開拓等拡販の推 進。		・システム活用により契約の 適正管理 ・マニフェスト伝票及び電子マニ フェストの管理 ・設備改善によるガラスカレ ットのスペックの安定化 ・ガラスカレットの販売先の新 規開拓及び販売	

※ 2023 年実績 電力の二酸化炭素排出係数は九州電力㈱の 0.385kg-CO₂/kWh を使用。

6. 環境活動の取組結果の評価、次年度の取組み内容

1) 二酸化炭素排出量

二酸化炭素排出量は、総量及び原単位とも大幅に減少した。要因としては蛍光灯処理ライン・乾燥機の撤去により電気・LPGの使用量が削減された影響により、二酸化炭素の総排出量が減少した。

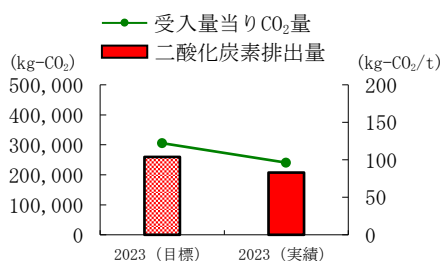
一方、①施設の運転効率の向上への対応、②照明・エアコンの状況に応じたスイッチ管理などの取組への従業員の意識の浸透③LED照明、④電動フォークリフト等の導入等、設備改善等により二酸化炭素排出量削減への活動も継続している。

今後も、今期活動の継続的な取組み行うとともに、設備改善等により目標の達成に向けて活動を行う。

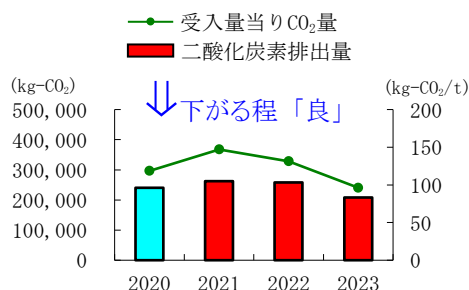
(参 考) 二酸化炭素排出量に関する 2020～2023 年度の実績は次表の通りである。

項 目	単 位	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
						対前年比 (%)
二酸化炭素排出量※ ¹	kg-CO ₂	240,355	262,530	262,136	207,771	80.5
(受入量当り)	kg-CO ₂ /t	118.5	147.0	123.4	96.2	73.4

2023 年度の環境目標実績と上表記載の実績値についてグラフ化した。数値が下がる程 環境に与える負荷は少ない（良い）。



二酸化炭素排出量の目標・実績



二酸化炭素排出量の推移

2) 廃棄物排出量

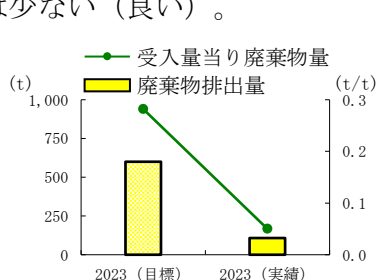
総量及び原単位とも目標達成した大きな要因としては昨年度まで、ひびき灘開発（株）に排出していた廃棄物を今年度よりイトムカ鉱業所での処理で計画して発送した。

今後も、①中間処理品（汚泥等）の再資源化、②原形管での排出の促進、③分別の促進等を進めるなど、廃棄物排出量削減の取組みを継続する。

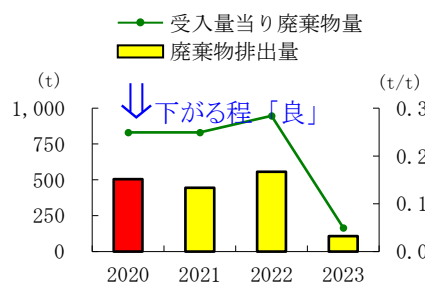
(参 考) 廃棄物排出量に関する 2020～2023 年度の実績は次表の通りである。

項 目	単 位	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
						対前年比 (%)
廃棄物排出量	t	505	446	606	107	19.2
(受入量当り)	t / t	0.249	0.249	0.284	0.050	17.6

2023 年度の環境目標実績と上表記載の実績値についてグラフ化した。数値が下がる程 環境に与える負荷は少ない（良い）。



廃棄物排出量の目標・実績



廃棄物排出量の推移

3) 上水使用量

・事務所：総量・原単位ともに目標達成。

総量・原単位とも目標を達成した。従業員数の減少により使用量が減少した。

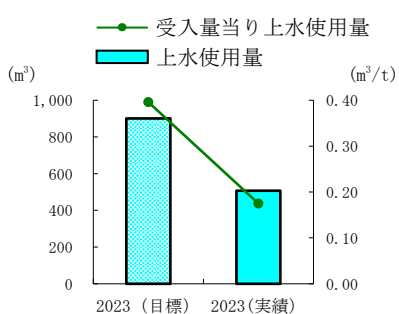
・工 場：総量・原単位ともに目標達成。

要因としては、蛍光灯処理ラインの撤去に伴い使用料が減少した。今後注視する。

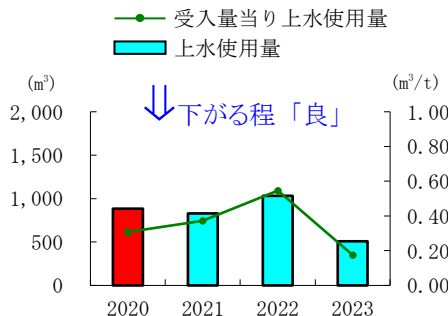
(参 考) 上水使用量に関する 2020～2023 年度の実績は次表の通りである。（工場・事務所合計）

項 目	単 位	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
						対前年比 (%)
上水使用量	m ³	884	829	909	508.1	49.2
(受入量当り)	m ³ / t	0.307	0.372	0.546	0.175	32.1

2023 年度の環境目標実績と上表記載の実績値についてグラフ化した。数値が下がる程 環境に与える負荷は少ない（良い）。



上水使用量の目標・実績



上水使用量の推移

4) 化学物質使用における適正な維持・管理

使用済蛍光管の処理工程で使用する薬品は、薬品の購入量を把握し、ガラスカレット等のリサイクル原材料の性状確認や設備の薬品投入量設定値の運転管理を継続することで使用量の管理を行っている。

また、薬品注入装置や保管タンク、供給配管等設備の日常点検や水質濁度防止法の特設施設の定期点検を行うことで薬品等漏洩等の不具合の発生を防止している。

今後も取組みを継続する。

5) グリーン購入法適合商品の購入

コピー用紙及びトイレトペーパーを始め、各事務用品も可能な限りグリーン購入法適合商品及びエコ商品の購入を行っている。今後も取組みを継続する。

6) 受託した産業廃棄物の再資源化取組みの推進

受託した産業廃棄物は、契約システムによる管理、計測及び搬入管理、マニフェスト伝票・電子マニフェストの管理等適正に管理を行っている。また、中間処理物も可能な限り再資源化を目標としながら、リサイクル原材料或いは委託廃棄物量等と同様に適正管理を行っている。

7) 環境目標数値の設定

2019 月 12 月より野村興産(株)のグループ会社となり、中間処理品の販路の開拓及び再資源化が促進される事業環境にある。2024 年度以降の目標値は、九州電力(株)2021 年度の調整後の二酸化炭素排出係数 (0.385kg-CO₂/kwh) を使用して変更を行い、その他の項目については、2023 年度の目標及び実績をもとに 2026 年まで下表のように再設定した。毎年受入量の見直し行っており、今後は前年度の実績を参考しながら毎年目標を設定して活動するものとする。

		単位	計 画			
			2022 (基準値)	2024	2025	2026
二酸化炭素	総 量	kg-CO ₂	262,136	217,815	217,815	217,815
	原単位	kg-CO ₂ /t	123.4	104.7	104.7	104.7
電力使用量		MWh	606	395	395	395
LPG 使用量		kg	25,250	22,000	22,000	22,000
ガソリン使用量		L	303	250	250	250
廃 棄 物	総 量	t	606	550	550	550
	単位量	t/t	0.284	0.264	0.264	0.264
水使用量	事務所 総 量	m ³	327	300	300	300
	事務所 単位量	m ³ /人	12.1	11.5	11.5	11.5
	工 場 総 量	m ³	582	400	400	400
	工 場 単位量	m ³ /t	0.399	0.314	0.314	0.314

※1 電力の二酸化炭素排出係数は九州電力(株)(2021 年度)の 0.385kg-CO₂/kWh を使用。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

当社の事業活動において、環境関連法規（廃掃法、騒音・振動規制法、毒劇法、PRTR 法等）の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係機関等からの指摘や利害関係者からの訴訟もありませんでした。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果・指示

○ 環境経営システム

機能は充実し特に問題なし。

○ 環境への取組の評価

- ・事務局及び社員は業務内容を十分に把握し、目標達成に研鑽していることが読みとれる。
- ・エネルギー使用量に関しては、概ね目標を達成している。全項目において目標を達成した。蛍光灯処理ライン・乾燥機の撤去による減少が大きく影響した。次年度以降も活動を同様に継続する。

○ 環境経営方針、環境経営目標・環境経営計画、実施体制等の変更の必要性

①環境経営方針：変更なし。

②環境経営目標・環境経営計画：

- ・目標については、2023 年度の実績及び 2024 年度の受入量計画を反映し新たに作成のこと。尚、電力の排出係数は 2021 年度の係数にて計算する。

③実施体制：変更なし。

④環境経営システム：目標達成に向けて、全員が意識を高く持ち取り組むこと。更に情報の発信を瞬時に行い共有することが必要でもある。環境経営システムとしては、機能しており今後も継続する。

9. 環境コミュニケーション

1. 地域とのコミュニケーション

地域の環境活動に積極的に参加し、地域住民の方とコミュニケーションを図っています。

また、毎週月曜日・火曜日は、北九州エコタウンのリサイクル工場見学コースとなっており、工場を開放し事業の理解を図っています。

2. 工場見学者

蛍光管及び乾電池のリサイクルを多くの方にご理解いただくために、工場見学をお勧めしていますが、2022 年度もコロナウイルスの影響もあり、一時制限させて頂きました。